

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

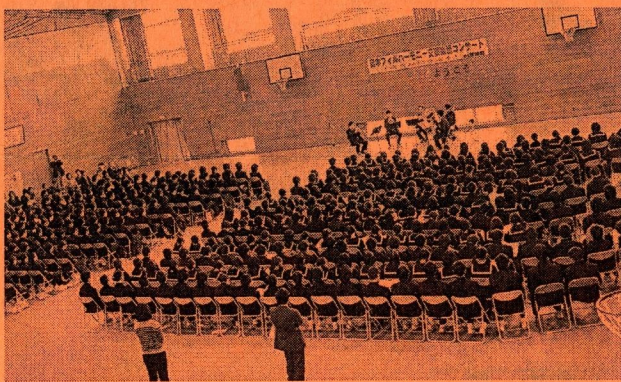
## 日本フィル金管五重奏が茨城の中学校で演奏をプレゼント

NHKや茨城新聞で報道され、大きな反響がありました。

12月14日と15日、日本フィル金管五重奏が茨城町といわきの学校を訪問しました。メンバーはトランペット橋本洋、中里州宏、ホルン伊藤恒男、トロンボーン岸良開城、チューバ柳生和夫の5人です。東日本大震災で震度6弱を記録した茨城町は幸い死者こそ出なかったものの消防本部や公民館、また桜ヶ丘中学校などが大きな被害を受け、使えなくなりました。道路や上下水道、河川の堤防も被害を受けました。東北地方の津波や原発被害のすさまじさの陰に隠れて、その被害についてあまり注目されてきませんでした。日本フィルの「被災地に音楽を」の活動を知り、ぜひ子どもたちに音楽を届けてほしいというリクエストがあり、それにおこたえしました。茨城町町長や教育長からも歓迎の挨拶を受け、町をあげて取り組んでいただいている印象を受けました。

14日は茨城町立明光中学校と梅香中学校の二つの学校で演奏をプレゼントしました。プログラムは金管楽器の紹介しながらアンダーソンやピアソラ、ジャズのナンバーを披露したほか、バーンスタイン「ウエストサイドストーリー」から「マリア」「トゥナイト」「アイ・フィール・プリティ」また、「ジングルベル」などのクリスマスにちなんだ曲も演奏しました。

明光中学校では、震災で体育館の天井パネルが落ちるなどの被害を受けたほか、自宅などが被害を受けた生徒もいて、体育館に響く力強く高らかな音色に生徒たちは聴き入っていました。



梅香中には、校舎が被災したため仮設校舎で学ぶ桜ヶ丘中の生徒も招かれました。コンサートの進行も務めた柳生は「元気になってもらえましたか」と呼び掛けました。生徒たちは「震災の時の恐怖と不安、その後も余震のたびに恐怖がよみがえり、体が震えます」「友達と一緒に演奏を聴けることに深い意味があると思いました」とお礼の言葉を述べました。

この模様はNHKの首都圏ニュースで放映され、多くの方から「見ました！」というメッセージを受けました。



## 原発からいわきに避難 双葉高校・双葉翔陽高校・富岡高校 3つの高校の合同吹奏楽部の指導と演奏に大きな声援が送られました。

その後、メンバーは常磐線を乗り継いでいわきへ。いわきには、福島第一原発から近い、双葉高等学校、双葉翔陽高等学校、富岡高等学校の3校が、いわき明星大学内のサテライト校に移転し学んでいます。事故後、避難を余儀なくされた生徒たちはさまざまな地域に分散し、現在約1/4の生徒がサテライト校で学んでいます。

3校の吹奏楽部は合同で部活動を続けています。部員は12名ほどですが、私たちは部活に打ち込む高校生の演奏指導に訪れることにしたのです。

指導はトランペット、トロンボーン、ホルン、チューバ、ユーホニウムの他に、この日から打楽器の遠藤功、クラリネットの蒲谷隆行(日本フィルOB)、フルートの藤田真頼(賛助)が加わりました。合計8名で7つの教室に分かれ、朝9時半からほぼマンツーマンの指導が行われました。楽器の構え方、呼吸の仕方など基礎からプロのアドバイスを受け、生徒たちの演奏技術はどんどん変化していきます。

このプロジェクトを支援してくださっている三菱UFJニコスのボランティアのみなさんも、その様子を目の当たりにし、びっくりしていました。

